

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○化学物質—化学物質・汚染物質

欧州食品安全機関(EFSA)、「業務計画文書(Programming document)2015～2017 年」とそれを紹介するプレスリリースを公表

公表日: 2015 年 2 月 4 日 情報源: 欧州食品安全機関(EFSA)

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/150204.htm>

欧州食品安全機関(EFSA)は 2 月 4 日、2015 年度以降の優先事項を示す「業務計画文書(Programming document)2015～2017 年」とそれを紹介するプレスリリースを行った。

食品安全にかかわる問題はこれまで以上に複雑になってきており、さらにはリスク管理者や欧州連合 5 億人の消費者に役立つ素早い対応も求められている。

新食品領域、動物と公衆衛生とが関わり合う領域といったところで、今までにないリスク評価の対象が生まれてきている。また、リスク評価における諸問題がその複雑さを増してきているということは、従来の科学的分類が常に適正ではないということを意味している。そのことは、たとえば、環境リスク評価、販売後モニタリング、リスク-便益評価といった領域が出現していることからわかる。

加えて、EFSA は国家の枠組みを超える可能性がある食品安全関連の緊急事態に迅速な対応をしなければならない立場に置かれている。EFSA はこの立場において、食品由来のアウトブレイクに対処するリスク管理者を支援するためにデータ解析と科学的アドバイスの提供、各種食品の追跡支援に大きな役割を果たしている。

また、世界の状況は非常にめまぐるしく動いており、社会は公開性と透明性の向上を求めている。開かれた政府、技術革新、ソーシャルメディアは、規制当局に対し、リスク評価コミュニティ、リスク管理者、利害関係者さらには市民社会と協働すること、そしてそれらの基盤および支援業務を再考することを求めている。

EFSA の予算は増えておらず、資金力も現状維持もしくは低下する状況下で複雑さや社会変化に立ち向かうため、少ない資源でより多くを成し遂げることが求められる。

EFSA は、2015 年に計画している科学、コミュニケーション及び組織運営に係る広範囲にわたる活動を開始した。

1. 2015 年の主な行事

(1)約 400 件の科学的成果物の採択、(2)EFSA の 8 つの科学パネル及び科学委員会のメンバー改選、(3)ミラノ(イタリア)における第 2 回 EFSA 科学会議の開催(ミラノ国際博覧会(EXPO2015)への欧州連合(EU)の貢献の一環)。

2. 2015～2017 年の主な科学的業務

(1)アクリルアミド及びカフェインを含む意見書、(2)EU の植物検疫(plant pest annexes)の対象となる病害虫のリストの見直し、(3)各種酵素及びイソフラボン類の評価、(4)ミツバチにストレスを与える原因のリスク評価に関する学際的プロジェクトの立ち上げ、など。

人獣共通感染症、食中毒、薬剤耐性及び残留農薬及び分子タイピングに関する年次報告書を公表し、食品中の化学物質に関する新しい報告書も公表する予定である。

「業務計画文書(Programming document) 2015～2017」(80 ページ)は以下の URL から入手可能。

<http://www.efsa.europa.eu/en/corporate/doc/amp1517.pdf>

○関連情報 (海外)

・ EFSA 「2014～2016 年の多年次業務計画及び 2014 年次業務計画書」

<http://www.efsa.europa.eu/en/corporate/doc/mwp1416workplan14.pdf>

・ 欧州連合(EU)の研究・技術開発枠組み計画「Horizon 2020」における EFSA の優先研究課題に関する技術的報告書

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/727e.pdf>

○関連情報 (国内)

・ 平成 27 年度食品安全委員会運営計画

<http://www.fsc.go.jp/fscis/attachedFile/download?retrievalId=kai20150210sfc&fileId=130>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fscis/>)をご覧ください